

## 新規事業採択時評価結果（平成 16 年度新規事業化箇所）

担 当 課：都市・地域整備局街路課

担当課長名：齊藤 親

事業名	出雲通		事業区分	街路	事業主体	八雲町
起終点	自：北海道八雲町東雲町 17 - 38 至：北海道八雲町出雲町 19 - 33				延長	1.3 km
事業概要						
当路線は、国道 5 号と八雲町中心市街地を接続する幹線街路であり、当路線西側沿道にはシビックコア地区整備の計画があり、平成 10 年代後期を目標に合同庁舎等の各種施設を整備中である。国道～シビックコア間の幹線道路を新設する。						
事業の目的、必要性						
当路線の現道は未整備であるため市街地南部と国道 5 号とのアクセスが確保されていない。当路線を新設整備及び JR 函館線の立体交差化により、八雲町の東西の連絡強化及び周辺市町村からシビックコア地区へのアクセス強化を図る。						
全体事業費	5.3 億円			計画交通量	6,500 台/日	
費用便益 分析結果	B / C	総費用		総便益	基準年 平成 15 年	
	1.7	4.5 億円		7.5 億円		
		事業費： 44.4 億円 維持管理費： 0.8 億円		走行時間短縮便益： 74.0 億円 走行費用減少便益： 1.0 億円 交通事故減少便益： 0.2 億円		
事業の効果等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑なモビリティの確保（踏切の除却により交通改善が見込まれる）</li> <li>・都市の再生（市街地の都市計画道路網密度が向上する）</li> <li>・国土・地域ネットワークの構築（現道の交通不能区間を解消する）</li> <li>・個性ある地域の形成（鉄道により一体的発展が阻害されている地区を解消する）</li> </ul> 他 5 項目に該当（定量的評価項目を含む）						
関係する地方公共団体等の意見						
「八雲町シビックコア地区整備計画」に基づき、当路線の沿線は広域的な交流機能をもった地区として合同庁舎等の施設整備が進められている。同地区へは渡島、檜山圏からの利用者が見込まれており、これに伴い交通量の増加も予想されるため、当路線の早期整備を要望したい。						
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。